

広島ガスの都市ガス安定供給への取り組み

都市ガスは、電気・水道と並ぶ地域を支える重要なライフラインの一つ。その都市ガスを安定的に供給することが、広島ガスの大きな「社会的責任」であると考えています。そのため、原料であるLNGの調達・輸送から都市ガスの製造・供給に至るまで、国際情勢、エネルギー市場の動向および業界の動き等を注視しながら、さまざまな施策を講じています。

各段階での安全対策の取り組み P.43

LNG安定調達に向けた取り組み

HP

LNG調達先の多様化

ここ数年、世界的規模で天然ガス需要は拡大していますが、当社においても都市ガスの需要増に対応するため、従来からの調達先であるインドネシアに加え、マレーシアからのLNG調達を2006年1月より開始しました。マレーシアとは、2005年度から8年間の契約を締結しています。

また、2009年にはロシア連邦の「サハリン プロジェクト」からの受け入れも開始する予定です。「サハリン プロジェクト」は、LNGの生産規模が年間960万tという大規模なプロジェクトで、当社では2006年4月に売買契約書に調印しました。この契約により、最大で年間21万tのLNGを調達する予定です。

この結果、LNG調達先が多様化でき、より一層の供給安定性向上が期待できます。

LNG第3船の就航 / スリヤ アキの追加取得

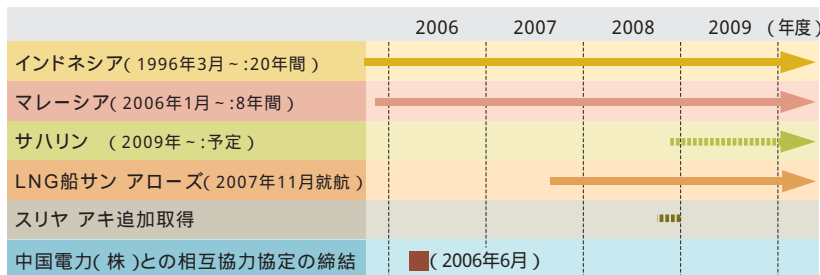
インドネシアからのLNG輸送は「スリヤ アキ」「スリヤ サツマ」で行っています。今般、サハリン プロジェクトからの運搬用として、(株)商船三井との合弁会社が船主となり3隻目のLNG船「サン アローズ」を建造しました(2007年11月就航)。サハリンは日本から近距離で、比較的短期間に輸送できることから、効率的な原料調達が可能になります。

また、2004年12月には「スリヤ アキ」の一部を買い取り、2008年度に75%の取得を予定しています。これらの取り組みによって、より安定したLNG供給体制を確立するとともに、将来にわたるLNG調達コストの低減をめざしています。

中国電力(株)との相互協力協定

地域における効率的かつ安定的な天然ガス普及を図るため、相互のLNGの調達・供給ならびに天然ガスの利用技術開発の分野において申し出がなされた場合、互いの協力を目的とする、相互協力協定を締結しています。

広島ガスのLNG安定調達に向けた取り組み



LNG船 サン アローズ

製造・供給設備の拡充

HP

東広島製造所の設備増設(第2期工事竣工)

広島・呉地区における需要増加に対応し、「緊急時」および「ご使用がピークとなる夕方や冬期」の供給安定性向上のため、廿日市工場からのパイプラインネットワークの末端となる東広島市の吉川工業団地に「東広島製造所」を新設(2006年10月)しました。

2007年10月には、LNG貯槽・LNG気化器などを増設する第2期工事が完成、より一層の供給安定性の向上を図っています。



東広島製造所(第2期工事2007年10月竣工)

水島ステーションおよび導管を活用した卸供給の実施(瀬戸内パイプライン(株))

当社の連結子会社である瀬戸内パイプライン(株)の設備で、水島LNG基地から天然ガスを受け入れ、熱量調整等を行う設備「水島ステーション」および水島 - 福山間の導管(約40km)が2006年11月に完成。広島県東部等に天然ガスを供給する体制を整備し、2007年1月から当社が福山瓦斯(株)に卸供給を行っています。



水島ステーション(瀬戸内パイプライン(株))